

第88回 憲法を考える映画の会

豹変と沈黙

日記でたどる沖縄戦への道

2026年 6月7日 (日)

13時30分～16時30分
文京区民センター 3A会議室
(地下鉄 春日駅 2分・後樂園駅 5分)

■プログラム

- 13:30～13:40 今回の作品について
- 13:40～15:20 映画『豹変と沈黙
日記でたどる沖縄戦への道』(104分)
- 15:30～16:30 トークシェア

■参加費：1000円 (若者：無料)

(予約、前売りなどは行っておりません。
参加費は、会場でお支払い下さい。)



豹変と沈黙 日記でたどる沖縄戦への道 イントロダクション

「戦後80年」…アジア太平洋戦争の記憶を思い起こすことがより求められる節目の年です。

「豹変」とは、日本兵が戦場で人間性を損なわれ、望むと望まないにかかわらず“人間兵器”へと仕立て上げられていった姿を表しています。

「沈黙」は、戦後、元日本兵らが口を閉ざしたこと、“豹変”の欠片を胸に秘めて生きることになった戦後の日々などを表しています。

元日本兵本人が存命で直接インタビューができる時代には、戦中日記はさほど注目されなかったかもしれませんが。あまりに過酷な体験であり、また 緘口令があって戦争について多くを語らなかつた体験者がほとんどです。日記は元日本兵たちの知られざる一面を浮かび上がらせる社会的な財産なのです。

本作はどこにでもいた、ごく普通の日本人が、兵士として体験した戦場の一端を描いています。生と死は紙一重、首斬りなども行われた異常な戦場…

果たして中国をはじめアジアの戦場で何があったのか。戦中日記を丁寧に読み解くことで歴史の真実に迫ろうと挑戦したのが、この新作ドキュメンタリー映画です。

(2025年制作/104分/原 義和 監督作品/日本映画)

監督メッセージ

本作は、トライアンドエラー (= 試行錯誤) から生まれた作品です。トライの一つが『戦中日記』への着目です。

日記は、軍幹部や政治家のそれではなく、名もなき『一兵卒』のものを取り上げました。おそらく家庭では「良き息子」「良き夫」であった庶民が軍に徴集され、日本兵へと仕立て上げられていった過程を追いました。

トライアンドエラーのエラーとは、出兵した世代とその息子や娘の世代では記憶の“断絶”があり、戦場体験者不在のいま、彼らの思いに肉薄することは難しく、踏み込みが浅くなってしまうことです。2世にいくらインタビューをしても五里霧中になることが多いのです。

父親が亡くなった後、息子や娘が遺された日記に関心を寄せるのは稀で、目も通さずに古物商に流している例もあります。しかし私にとって、戦中日記との出会いは新たな地平を開いてくれました。万年筆の文字が静かに伝える戦場のリアルがありました。戦争が人間的な営みで、生身の人間が感情を伴って行うものであることを教えてくれました。戦中日記は戦場で書かれた一次資料であり、貴重な一級資料です。

私はこれらの日記を“社会の記憶”として歴史に刻みたいと、この映画に挑戦しました。
(監督 原 義和)

憲法を考える映画の会 (関連上映会) これまでの上映作品 (2013年4月~2026年4月)

<p>第1回 2013年4月06日 戦争をしない国 日本</p>	<p>第23回 2016年1月31日 白バラの祈り ゾフィー・ショル、最後の日々</p>	<p>第49回 2019年3月02日 天から落ちてきた男</p>	<p>第64回 憲法映画祭2022 4月23日・24日 グレタひとりぼっちの挑戦/ちむぐりさ/ 私たちが生まれた島/若きハルサエたちの唄/ ハーケレー市民がつくる町/日本鬼子/ 映画日本国憲法/コスタリカの奇蹟</p>
<p>第2回 2013年5月19日 八十七歳の青春 市川房枝生涯を語る</p>	<p>第24回 2016年3月26日 グラニート 独裁者を追い詰める</p>	<p>第50回 憲法映画祭2019 4月26日~28日 あの日の声を探して/天皇の名のもとに/ 証言国際競争/陸軍前線飛行場/ 沖縄スバイ戦史/ありふれたファシズム/ ショックドクトリン/ベトナムから遠く離れて/ 共犯者たち</p>	<p>第8回 ちいさな映画会 2022年6月25日 ヒトラー VS チャップリン 終わらなき闘い チャップリンの独裁者</p>
<p>第3回 2013年6月15日 映画 日本国憲法</p>	<p>第25回 憲法映画祭2016 5月01日 映画 日本国憲法/ありふれたファシズム/ ショック・ドクトリン</p>	<p>自主制作映画見本市 #1 2019年4月30日 死んだらヒマはない/私の描きたいこと ハトは泣いている/隠された爪跡/ OKINAWA1975/ 知事抹殺の真実/フクシマ2011</p>	<p>第65回 2022年8月13日 TOMORROW 明日</p>
<p>第4回 2013年7月06日 日本国憲法誕生</p>	<p>第26回 2016年6月26日 ザ・思いやり</p>	<p>第51回 2019年6月30日 沖縄から叫ぶ 戦争の時代 宮古島からのSOS</p>	<p>自主制作映画見本市 #9 2022年9月18日 2887/ワタシタチニヘンゲングタ!/ 葫蘆島運送/岸辺の代</p>
<p>第5回 2013年8月10日 日本の青空</p>	<p>第27回 2016年7月24日 ハトは泣いている 時代(とき)の肖像</p>	<p>第7回 ちいさな映画会 2019年7月14日 言わねばならないこと/遅すぎた聖断</p>	<p>第66回 2022年10月23日 教育と愛国</p>
<p>第6回 2013年9月14日 ヘアテの贈りもの</p>	<p>第28回 2016年9月17日 焼け跡から生まれた憲法草案</p>	<p>第52回 2019年8月10日 ピカドン ひろしま</p>	<p>第67回 2022年12月25日 日本原 牛と人の大地</p>
<p>第7回 2013年11月02日 ショック・ドクトリン</p>	<p>第29回 2016年10月15日 NO (ノー)</p>	<p>自主制作映画見本市 #2 2019年9月23日 「在日」/証言 中国人強制連行/ レーン・宮沢事件/ファルージャ/ シロウオ/生きるのに理由はいらない</p>	<p>第68回 2023年2月12日 テロリストは誰?</p>
<p>第8回 2013年11月30日 レーン・宮沢事件</p>	<p>第30回 2016年11月03日 わたしの自由について SEALDs 2015</p>	<p>特別講演会 2019年10月22日 「現代天皇制の心の支配」 山田明 先生 遅すぎた聖断</p>	<p>第69回 憲法映画祭2023 4月29日30日 はだしのゲン/対馬丸/うしろの正面だあれ/ 少女ファニーと運命の旅/ジョニーは戦場へ行った/ 沖縄うりずんの雨/教育と愛国/ある戦争</p>
<p>第9回 2014年1月18日 ニッポンの嘘 報道写真家 福島菊次郎90歳</p>	<p>第6回 ちいさな映画会 2016年12月10日 抗い ARAGAI 横浜事件を生きて</p>	<p>第53回 2019年10月26日 ニジノキセキ</p>	<p>第70回 2023年7月16日 ドキュメント石垣島/ 沖縄、再び戦場へ(仮) スピンオフ作品</p>
<p>第10回 2014年2月08日・3月01日 “私”を生きて</p>	<p>第31回 2017年1月29日 横浜事件を生きて 横浜事件 半世紀の問い</p>	<p>特別上映会 2019年11月03日 靖国・地霊・天皇 遠近を抱えて PART2</p>	<p>第71回 2023年8月6日 広島・長崎における原子爆弾の影響</p>
<p>第11回 2014年4月12日 9条を抱きしめて</p>	<p>第32回 2017年2月25日 小林多喜二</p>	<p>第54回 2019年12月08日 主戦場</p>	<p>第72回 2023年10月21日 鶴彬 こころの軌跡</p>
<p>第12回 2014年5月24日 死んだらヒマはない 益永スミコ86歳</p>	<p>第33回 2017年3月26日 武器なき闘い</p>	<p>自主制作映画見本市 #3 2020年1月13日 陸軍前線飛行場/靖国・地霊・天皇 憲法を武器として/9条を抱きしめて 裁判所前の男/選挙が生まれる</p>	<p>第73回 2023年12月23日 流血の記録 砂川</p>
<p>第1回 ちいさな映画会 2014年6月21日 ラブ沖縄</p>	<p>第34回 憲法映画祭2017 4月29・30日 意志の勝利/白バラの祈り/夜と霧/ 顔のないヒトラーたち/戦争をしない国 日本 大東亜戦争/天皇と軍隊</p>	<p>第55回 2020年2月11日 アフガニスタン 用水路が運ぶ恵みと平和</p>	<p>第74回 2024年2月3日 サイレント・フォールアウト</p>
<p>第13回 2014年7月19日 ファルージャ イラク戦争 日本人質事件…そして</p>	<p>第35回 2017年5月27日 知事抹殺の真実</p>	<p>第56回 2020年9月21日 沖縄と本土 一緒に闘う ヤジと民主主義</p>	<p>第75回 憲法映画祭2024 4月29日 ヤジと民主主義/ではら/荒野に希望の灯をともし/戦争のつくりかた/ ミサイル基地がやってきた 鳥で生きる/ サイレント・フォールアウト</p>
<p>第2回 ちいさな映画会 2014年8月17日 僕たちは見た 沈黙を破る</p>	<p>第36回 2017年7月01日 テロリストは誰?</p>	<p>自主制作映画見本市 #4 2020年9月26日 ヒロシマナガサキ 最後の二重被爆者 私たちは忘れられない/二つの故郷を生きて 棘/人らしく生きよう/生きるのに理由はいらない</p>	<p>第76回 2024年6月29日 アトミック・カフェ</p>
<p>第14回 2014年9月21日 ありふれたファシズム 野獣たちのバラード</p>	<p>第37回 2017年8月27日 戦ふ兵隊 日本の悲劇</p>	<p>第57回 2020年11月03日 地の塩</p>	<p>第77回 2024年8月11日 生きていてよかった/千羽鶴</p>
<p>第3回 ちいさな映画会 2014年10月4日 速報 辺野古の闘い 2014年8月 アルマジロ</p>	<p>第38回 2017年10月14日 隠された爪跡 払い下げられた朝鮮人</p>	<p>特別上映会 2020年11月23日 人らしく生きよう 国鉄冬物語</p>	<p>第78回 2024年10月14日 琉球弧を戦場にすな</p>
<p>第15回 2014年11月22日 ANPO あの熱かった時代の「抵抗」のアート</p>	<p>第39回 2017年12月10日 ジョン・ラーベ 南京のシンドラ</p>	<p>自主制作映画見本市 #5 2021年2月23日 天皇の名のもとに/グラニート/ ザ・思いやり/チェルノブイリハート</p>	<p>第79回 2025年1月12日 映画 〇月〇日、区長になる女。</p>
<p>第4回 ちいさな映画会 2015年2月1日 スペシャリスト わが青春に憐れし</p>	<p>第40回 2018年1月27日 憲法を武器として 憲法事件 50年目の真実</p>	<p>第58回 2021年3月27日 言わねばならないこと ショック・ドクトリン</p>	<p>第80回 2025年3月20日 ガザからの報告</p>
<p>第16回 2015年3月14日 証言 侵略戦争 証言 中国人強制連行</p>	<p>第41回 2018年2月25日 ザ・思いやりパート2 尊皇と行進曲</p>	<p>第59回 憲法映画祭2021 4月17日 戦争のつくりかた/戦争をしない国日本 シャドー・ティール/1987、ある闘いの真実</p>	<p>第81回 憲法映画祭2025 4月29日 禁じられた遊び/ヘアテの贈りもの オン・ザ・ロード/夢みる校長先生</p>
<p>第17回 2015年4月25日 イラク 戦場からの告発 ジャーナル イラク異議の闘い シリア内戦 イスラム国の正体を暴く</p>	<p>第42回 憲法映画祭2018 4月29・30日 すべての政府はウソをつく/ニッポンの嘘 東京裁判/NO/ハトは泣いている トランプのアメリカ</p>	<p>第60回 2021年6月06日 ハワイマレー沖海戦 ドキュメント 真珠湾攻撃/ミッドウエイ海戦</p>	<p>第82回 2025年6月28日 琉球弧を戦場にすな 2025 揮啓 住民投票さま 石垣島のまんなかで起きたこと</p>
<p>第18回 2015年6月13日 井上ひさし 九条を語る 加藤周一 九条を語る 女性達にとっての日本国憲法</p>	<p>第43回 2018年6月3日・30日 500年 権力者を裁くのは誰か グラニート 独裁者を追い詰める</p>	<p>第61回 2021年8月08日 荒野に希望の灯をともし</p>	<p>第83回 2025年8月11日 陸軍</p>
<p>第19回 2015年7月18日 東京裁判</p>	<p>第44回 2018年8月25日 「在日」</p>	<p>自主制作映画見本市 #6 2021年9月26日 外国人収容所の闘い/君が代不起立/ 終わりの見えない闘い/間に消されてなるものか</p>	<p>第84回 2025年10月5日 あの日、群馬の森で</p>
<p>第5回 ちいさな映画会 2015年8月23日 弁護士 布施辰治 天皇の名のもとに</p>	<p>第45回 2018年9月23日 スペシャリスト 眞実なき戦線記者</p>	<p>第62回 2021年11月21日 子どもたちの昭和史</p>	<p>第85回 2025年12月7日 レーン・宮沢事件</p>
<p>第20回 2015年9月13日 誰も知らない基地のこと</p>	<p>第46回 2018年11月03日 OKINAWA1965</p>	<p>自主制作映画見本市 #7 2021年12月26日 原爆の町を追われて/ハーケレー市民がつくる町 日高線と生きる/作兵衛さんと日本を握る/ いのちの海</p>	<p>第86回 2026年2月8日 日本人はなぜ戦争へ向かったのか “熱狂”はこらして作られた</p>
<p>第21回 2015年10月25日 首相官邸の前で</p>	<p>第47回 2018年12月08日 南京! 南京!</p>	<p>第63回 2022年2月06日 轍</p>	<p>第87回 憲法映画祭2026 4月18日 二十四の瞳/ラストメッセージ/ ありふれたファシズム/ 戦争のつくりかた/百姓の百の声</p>
<p>第22回 2015年11月28日 ハーツ・アンド・マインズ ベトナム戦争の真実</p>	<p>第48回 2019年1月27日 わたしの描きたいこと</p>	<p>自主制作映画見本市 #8 2022年3月13日 傍観者あるいは偶然のテロリスト/ 海辺の彼女たち/フィッシュマ・サンダマリ/ オキユバイジャンティ/ メトロレディーブルース</p>	<p>憲法を考える映画の会 〒185-0024 東京都国分寺市泉町3-5-6-303 mail: hanasaki33@me.com HP: http://kenpou-eiga.com/</p>

●毎回の「映画の会の案内」をご希望の方は、右記のMailアドレスまで、その旨、お知らせください。